

音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり、感じ取ったりする活動を通して、自らの感じ方を広げ、深める音楽科の学習

I 音楽科研究の方向性

1 主題設定の理由

音楽科においては、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することなどに重点を置いて、その充実が図られてきました。新学習指導要領においては、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさなどを考えたりしていくことなどについて更なる充実が求められています。

前研究では、「音楽の捉え方を自分なりにもち、思いや意図を明確にして、豊かに表現する音楽科の学習」をテーマに研究を進めてきました。音楽表現への思いや意図を明確にすることで、児童は音楽の学習に意欲的に取り組み、音楽を学ぼう、吸収しようという主体的な姿が見られました。また、音楽フェスティバル等の行事においては、生き生きと表現したり、他学年の表現を味わって聴いたりする姿が見られ、音楽を主体的に表現・鑑賞する力が育ってきていると感じました。前研究の成果や本校の児童のよさを更に伸ばすためには、学習過程に工夫を加え、楽しむ質を向上させたり、音楽を身近に感じさせたりすることが大切であると考えます。

以上を踏まえ、研究主題を「音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり、感じ取ったりする活動を通して、自らの感じ方を広げ、深める音楽科の学習」と設定しました。「音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり、感じ取ったりする活動」とは、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を聴き取ったり、それらの働きが生み出すよさなどを感じ取ったりする活動のことです。「自らの感じ方を広げ、深める」とは、友達と、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、感じ方を共有・共感することを通して、自分と異なる感じ方を自らの感じ方に生かしたり、自分の感じ方との共通点に気づき、自らの感じ方やその根拠を見直して明確にしたりすることです。

2 目指す児童の姿とその具体

自らの思いや意図を大切にしながら、音楽の表現やよさを追求する児童

「思いや意図」とは、音楽を聴いたときに感じた「こういう表現をしたい。」という願いや、「こんな理由で、こういう表現にしよう。」といった、根拠を必要とする考えです。「思いや意図」を大切にすることが、探究的な学習の原動力になります。

「音楽の表現やよさを追求する」とは、知識や技能を得たり、生かしたりして、思考を伴った試行錯誤を繰り返しながら、「自らの思いや意図」を実現するように表現することです。また、自分なりに曲や演奏のよさなどを考え、言葉で表しながら交流するなどして習得した知識を踏まえて、音楽的な根拠を基に曲や演奏のよさなどを見いだすことです。

音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり、感じ取ったりする活動の中で、自らの思いや意図を出発点として、音楽の表現やよさを追求していくことが、音や音楽に対する感じ方を広げ、深めることにつながると考えます。

II 研究内容の具体

1 音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり、感じ取ったりする題材構成の工夫

児童が自らの感じ方を広げたり深めたりするためには、題材を通して、根拠をもって、他者と共有・共感することが大切です。そのためには、各領域や分野の関連を図った題材計画を立案して、双方の活動の要となるような音楽を形づくっている要素を焦点化し、明確にすることが必要です。そこで、音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり、感じ取ったりしながら、自らの感じ方を広げたり、深めたりする題材構成の工夫について明らかにしました。

○題材計画例（鑑賞の活動を、表現の学習を深めるための手立てとして位置付ける場合）

- ・題材：第3学年「アンサンブルの楽しさ」（全3時間）
- ・題材構成の工夫：鑑賞の活動を、表現の学習（分野：歌唱、器楽）を深めるための手立てとして位置付け、指導の焦点化を図る。
- ・音楽を形づくっている要素：呼びかけとこたえ、音の重なり

第1時	第2時	第3時
A表現（歌唱）「せいじゃの行進」 ※鑑賞の活動「せいじゃの行進」	A表現（器楽）「せいじゃの行進」 ①（1パート）	A表現（器楽）「せいじゃの行進」 ②（2パート）
第1時に表現教材「せいじゃの行進」の参考音源として原曲を鑑賞することを通して、ディキシーランド・ジャズの雰囲気を感じたり、ジャズの音楽で使われる楽器の呼びかけとこたえや音の重なり気付いたりしたことを表現（歌唱・器楽）に生かす。		

2 音楽の表現やよさの追求を支える指導の工夫

児童が自らの感じ方を広げたり、深めたりしていくためには、音や音楽と出会ったときの自らの思いを大切にしながら、音楽の表現やよさを追求していくことが大切です。そのためには、そのときに会った音や音楽がもつ特徴やよさについて表現したり、考えたりするための自分なりの思いや意図をもつことが必要です。ここでは、児童の音楽の表現やよさの追求を支える指導の工夫について明らかにしました。

○音楽の表現やよさを追求するための、自分なりの思いや意図をもたせる指導の工夫

領域	児童の活動	教師の手立て
表現	・自分が歌ってみたい（演奏してみたい）歌詞の節の一つを選び、歌詞の内容などから自分なりにイメージを膨らませた様子を絵や言葉で表す。	・事前に、各節の歌詞の内容などから、どのようなイメージできるかについて、児童から考えを出させ、全体で共有する。
	・自分が歌ってみたい（演奏してみたい）イメージの写真や絵の一つを選ぶ。	・その音楽の特徴を踏まえた写真や絵を準備する。
	・自分がつくってみたい音楽をイメージし、副題や話の流れを考える。	・音楽の仕組みなどの条件を設定することにより、児童のイメージの方向性を広げすぎないようにする。

○自分なりの思いや意図を広げ、深めるための指導の工夫（一人一台端末を使用したロイロノート・スクールの活用）

- ・児童一人一人が、自分の聴きたいタイミングで、聴きたい部分を選択して表現したり、鑑賞したりできるように、音源データを配付する。
- ・音符や休符等を書かずに音楽づくりができるよう、音符や休符等が書かれたカードを配付する（児童はカードをつなげて楽譜にする）。

3 学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫

児童が自らの感じ方が広がったことや深まったことを実感するためには、自らの学習を振り返ったり、互いの学習成果を友達と認め合ったりすることが大切です。そのためには、自己の振り返りを保存・蓄積して見返したり、友達と自己の振り返りや、児童同士の相互評価を交流したりすることが必要です。ここでは、一人一台端末を活用して、学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫について明らかにしました。

○主な音楽を形づくっている要素を明確にするための自己評価

- ・音楽を形づくっている要素を明確にして、考えたことや工夫したことを振り返る。

○一人一人の児童の力や個性を生かし、ともに成長するための相互評価

- ・ロイロノート・スクールのテキストカード（付箋機能）を利用し、友達の表現や考えの「よいところ」や「よくするアイデア」を交流する。

<3年次研究の重点>

- ・音楽の表現やよさの追求を支える指導の工夫
- ・学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫

研究実践

5年生実践 『ずれの音楽をつくろう』

実践のテーマ：表現したいイメージと音楽を形づくっている要素の働きを
関連付けて音楽をつくるための思いや意図をもつ音楽科の学習

1 研究授業のねらい

本題材では、音楽を形づくっている要素として、主に、「音楽の縦と横との関係」に着目させ、思いや意図をもって、ずれや重なりを生かした音楽づくりに取り組める題材構成にしました。

まず、鑑賞教材として、2人の演奏者が同一のリズム・パターンを、重ねたり、ずらしたりして演奏する「クラッピング ミュージック」を扱いました。鑑賞したり、演奏（手拍子）したりすることにより、同一のリズム・パターンの反復であっても、音楽の縦と横との関係を工夫することにより、音の重なり方の変化の面白さに気付きました。

この学習を基に、題材の後半では、児童にとって聴きなじみがある「レッツゴー」のリズム・パターンを用い、音楽の縦と横との関係を工夫しながら音楽をつくっていく学習を展開しました。なお、学習の過程において、強弱の工夫をした方が、自分のつくりたい音楽になるという児童の意見があったため、必要に応じて、音楽の縦と横との関係（音楽の仕組み）に、強弱（音楽を特徴付ける要素）を関わらせながら、音楽づくりに取り組みました。

2 題材の指導計画（3時間扱い）

時	学習内容・学習活動	評価規準・記録に残す場面 (評価方法)	音楽を形づくっている要素の働きを聴き取ったり、感じ取ったりさせて学ぶ児童の姿	思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素	
				ア	イ
①	<ul style="list-style-type: none"> ○「クラッピング ミュージック」を聴いたり、演奏したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の10秒を聴き、気付いたことを交流する（「手拍子で演奏している。」「リズムがそろっている。」「同じリズムを反復させている。」）。 ・曲名と、反復しているリズム・パターンを確認する。 ・冒頭の10秒を再度聴き、何度反復したかを確かめ、音源と同じ回数でリズム・パターンを手拍子する。 ・続きを聴き、2名で演奏していることと、リズム・パターンを6回反復した後は、8分音符分ずらして演奏していることを知る。 ・リズム・パターンを8分音符分ずらし、手拍子する。 ○「レッツゴー」のリズムをずらし遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・「レッツゴー」のリズムを聴き、手拍子する。 ・「クラッピング ミュージック」のように、リズム・パターンをずらして手拍子できないか、試してみる。 ・リズム・パターンを重ねたり、様々な拍の長さでずらしたりすることで、感じ方がどのように変わるかを考える。 ○学習の振り返りをする。 	<p>①知 (発言、観察、記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反復するリズム ・パターンのつなげ方や重ね方の特徴について、それらの生み出すよさや面白さと関わらせて理解する。 		音楽の縦と横との関係
② (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を想起する。 ○学習課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 「レッツゴー」のリズム・パターンを重ねたり、ずらしたりして、音楽をどのように作るかを考えよう。 ○「レッツゴー」のリズム・パターンを使い、重なりやずれを入れた音楽づくりに取り組むための副題や話の流れを考え、音楽づくりの考えをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・設定された条件に基づいて考える。 ・教師がつくった例を見て、考えた副題や流れに合う音楽をつくるために、自分ならどのように重ねたり、ずらしたりするのかを考える。 ・4人グループで、考えたことを交流する。 ・友達の考えを参考にしながら、再度考える。 ○学習の振り返りをする。 	<p>②思 (発言、観察、記述)</p>	<p>①（観察、発言、記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の縦と横との関係などを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体をまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。 	(強弱)	
③	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を想起する。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りの内容を交流する。 ○「レッツゴー」のリズム・パターンを使って、ずらしたり、重ねたりしながら、音楽をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えたことを基にしながら、曲全体を「始め」「中」「終わり」の3つに分けて音楽をつくる。 ・ロイロノート・スクールを活用しながら、拍子記号と終止線を付け足すなど、全体を整えて、楽譜にする。 ○つくった作品をペアで演奏したり、友達の作品の演奏を聴いたりして、作品の感想を伝え合う。 ○学習の振り返りをする。 	<p>③技 (発言、観察、記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いに合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係などを工夫しながら、音楽をつくる技能を身に付けている。 		

3 本時の学習

(1) 本時の目標

音楽の縦と横との関係などを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、「レッツゴー」のリズム・パターンを重ねたり、ずらしたりすることを通して、全体のまとまりを意識した音楽をつくるために、音楽の副題や話の流れを考える。

(2) 本時の展開（3時間扱いの2時間目）

学習内容と主な学習活動	研究とのかかわり・留意点
<p>1 ハミングで「始めます」の挨拶をする。(1分)</p> <p>2 前時の学習を想起する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> リズム・パターンの重なりとずれに着目して音楽を聴いたり、自分たちで演奏したりした。 リズム・パターンを重ねたり、様々な拍の長さでずらしたりすることで、感じ方が変わることが分かった。 次は、自分たちで音楽をつくれないうか。 <p>3 本時の学習の課題を確認する。(1分)</p> <p>「レッツゴー」のリズム・パターンを重ねたり、ずらしたりして、音楽をどのようにつくるかを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師はピアノで音取りをする。 本時で取り上げる「音楽のもと」は、リズム・パターンの「重なり」や「ずれ」から、音楽の縦と横との関係（音楽の仕組み）を主なものとする。 「音楽のもと」は授業内で使用している言葉であり、「音楽を形づくっている要素」と同義である。
<p>4 「レッツゴー」のリズム・パターンを使い、重なりやずれを入れた音楽の副題（テーマ）や話の流れをイメージし、表現方法を考える。(13分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 副題と話の流れを考える。 ロイロノート・スクール上にある「レッツゴー」のリズム・パターンの音源に合わせて手拍子をして試しながら、副題と話の流れに合う表現（重なりとずれ）を考える。 設定された条件に基づいて、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりから考えた表現や、表現に至った理由をワークシートに記入する。 教師がつくった例を見て、考えた副題や話の流れに合う音楽をつくるために、自分ならどのように表現するのかを考える。 <p>5 グループで考えを交流する。(8分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ここまで考えたことを交流し、感想を伝え合う。 <p>6 グループで交流した考えを参考にしながら、再度、自分の副題や話の流れに合った音楽づくりをするための表現方法やその理由を考える。(13分)</p> <p>7 学習の振り返りをする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で考えた副題や話の流れに合わせた音楽づくりをするために、リズム・パターンの重ね方やずらし方をどのように工夫したかを振り返り、記入する。 友達の考えで参考になったことを振り返り、記入する。 <p>8 ハミングで「終わります」の挨拶をする。(1分)</p>	<p>◇音楽の表現やよさの追求を支える指導の工夫</p> <p>研究視点 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイロノート・スクールを活用して、手拍子で演奏したリズム・パターンの音源を準備し、児童がその音源を流しながら演奏を試せるようにする。 音楽づくりの思いや意図をもたせるために、自分で副題や話の流れを自由に考えさせ、表現につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【設定する条件】</p> <p>①重なりとずれを両方使う。</p> <p>②曲全体を「始め」「中」「終わり」に分け、話の流れと表現を考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 友達の思いや意図から、表現を工夫したことに気付かせる。 全体のまとまりを意識できるよう、全体を見通しながら表現できるように声を掛ける。 音楽と縦と横との関係以外の音楽を形づくっている要素（強弱、速度等）を工夫したいという児童の声があれば、音楽の縦と横との関係の工夫と関わらせながら工夫するよう伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【恩】音楽の縦と横との関係などを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、「レッツゴー」のリズム・パターンを重ねたり、ずらしたりすることを通して、全体のまとまりを意識した音楽をつくるために、音楽の副題や話の流れを考えている。</p> <p>【努力を要する児童への働きかけ】 教師がつくった例を取り上げ、リズム・パターンを重ねたり、ずらしたりしたときに、どのような話の流れが合いそうかを一緒に考える。</p> </div> <p>◇学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫</p> <p>研究視点 3</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素の働きについて、工夫したことや、友達の考えから参考になったことを振り返る。 ロイロノート・スクールのテキストカードに記入、保存・蓄積させ、次時の導入で使用する。 <ul style="list-style-type: none"> 教師はピアノで音取りをする。

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

- 自分で設定した曲の副題や話の流れに合わせて、全体のまとまりを意識しながら、自分なりの根拠をもち、音楽の縦と横との関係などを工夫して、音楽づくりの思いや意図をもっている児童の姿。

4 授業の実践

音楽の表現やよさの追求を支える指導の工夫

本時の学習では、音楽の表現やよさの追求を支える指導の工夫として、児童が音楽づくりをするための思いや意図をもてるよう、本題材における音楽を形づくっている要素を生かせる音楽のテーマを考えました。具体的には、音楽の縦と横との関係（音楽の仕組み）を取り上げたため、まず、リズム・パターンを重ねたり、ずらしたりすることで感じられるよさや面白さについて考えました。その後、リズム・パターンを重ねたり、ずらしたりすることで感じられるよさや面白さを生かせるような曲のテーマや曲全体の流れにはどのようなものがあるかについて、全体で考えを出し合い、個人でテーマなどを設定するようにしました。

曲のテーマ（副題）と曲全体の流れ（話の流れ）は児童一人一人が自由に設定するようにしました。なお、「リズム・パターンのずれや重なりによって感じられるよさや面白さを生かせるような曲のテーマや曲全体の流れ」になるようにすることで、音楽の方向性がある程度絞られるため、児童が思いや意図をもちやすくなると思われました。

音楽づくりの学習をする上では、実際に音を出したり、音楽を演奏したりして試しながら、聴き取ったことと、感じ取ったこととを関わらせて考えることにより、思いや意図をもつことが大切です。しかし、リズム・パターンを拍に合わせて手拍子することを困難に感じる児童がいると予想されました。そこで、一人一台端末を活用し、児童各自がリズム・パターンの音源を流し、速度や強弱（音量）を自分で調節しながら、自分のペースで試せるようにすることで、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えやすくする指導の工夫も行いました。

今後も、児童が音楽のよさや表現を追求する上で、思いや意図を醸成するために効果的な教師の手立てにはどのようなものがあるのか、更に検証していきたいと考えています。

② 「レッツゴー」のリズム・パターンを使った音楽を・・・

リズム・パターンの使い方	音楽の感じ	思い浮かぶイメージ
重ねる	ちかちか音にきこえる -つ-の音が厚め	スキップ
ずらす	体がかきこえなくなる さいしよの2小節のリズム が反復されている りんしょうみだい	小走り

【A児のワークシートより 上:第1時 右:第2時(本時)】

第1時には、「レッツゴー」のリズム・パターンを重ねたときとずらしたときの特徴（音楽の感じやイメージ）を自分なりに理解した。

第2時には、第1時に理解したこと（重ねると音が厚くなる気付きなど）を基にしつつ、友達と考えを交流しながら、自分のつくりたい音楽を考えました。その際、音楽の縦と横との関係を生かした曲のテーマや全体の流れを考えることにより、自分なりの思いや意図を具体的にもつことができました。

○ 曲名「レッツゴー ミュージック～一位をめざして、走りぬけ～」

【考え方】

① 重なりとずれを両方入れる。

② 曲全体を3つに分けて、話の流れやリズム・パターンの使い方を考える。

	始め	中	終わり
話の流れ(交代して内容を展開させよう)	女台めは、重ねて 力強いイメージを 出したい。 先-一位をとりたか ら-一位をめざして	中は、2はくすら して、おくらしている ようにしたい。 中→ちよつつかれて あくらしている。	最後は、最しよと 同じで、力強く、 またかんはっている。
リズム・パターン	重ねる ずらす ↓ ()はくずらす	重ねる ずらす ↓ (2)はくずらす	重ねる ずらす ↓ ()はくずらす
リズム・パターン	「始め」「中」「終わり」で、リズム・パターンを反復させたい場合は書いてください。 重ねる ずらす ↓ ()はくずらす	重ねる ずらす ↓ (4)はくずらす	重ねる ずらす ↓ ()はくずらす

○メモらん

4はくすらして、
てんかおくらしている
ようにしたいです。
中で力強い音を
つける。
4はくおくらるときに
弱くする

リレーの様子をテーマに、「重なり」は競っている相手と並走中を、「ずれ」は相手より遅れてしまっている様子をイメージしていることが分かる。また、相手との距離が離れたときは、リズム・パターンを反復させ、ずらす時間（拍）を長くする工夫をしていることも読み取れる。

学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫

本時の学習では、児童が学習したことの意義や価値を実感する評価の工夫として、学習の終末で、音楽を形づくっている要素の働きについて工夫したことを振り返られるようにしました。そうすることで、児童が、本時の学習において、どんなことについて考えたのか、また、どんなことができたり、分かったりしたのかを自覚することができると考えました。

まず、自分で考えた副題や話の流れに合わせた音楽づくりをするために、リズム・パターンの重ね方やずらし方をどのように工夫したかについて記入しました。そして、友達の考えを知り、参考になったことについても振り返りました。その結果、音楽を形づくっている要素の働きを工夫したことで、自分の思いや意図に合わせて音楽づくりができたことや、様々な工夫の仕方があるということに気付くことができました。

なお、ロイロノート・スクールを活用して保存・蓄積（データ化）することで、児童が今後の学習において自分の学びを振り返ったり、友達同士で振り返りを交流したりすることができるようにしました。また、振り返りの内容をデータ化することで、教師が、児童の変容を見取ることができ、評価に活用することができるようにしました。

今後は、児童が学習したことの意義や価値を実感する評価となるよう、効果的な振り返りの内容や、題材内及び題材間のつながりにおける振り返りの効果的な活用については、更に検証する必要があります。

「レッツゴー」のリズム・パターンを使った音楽づくり（副題や話の流れをもとに考えよう）

【重ね方やずらし方を工夫するために考えたこと】

はじめと終わりはゆっくりしている感じ、中は忙しい感じを表すために、はじめと終わりは重ねて、中は1拍（反復は2拍）ずらしました。ずらすと、休符が聞こえなくなるから、忙しい感じを表せると思ったからです。

「重ね方やずらし方」と指定することで、音楽の縦と横との関係の働きについて工夫したことを振り返られるようにした。

【友達の考えを聴いて参考になったこと】

□さんの走っているところをイメージして、中の反復を4拍ずらすという考えを聞いて、ずらす拍が多いほど、忙しい感じが表せると思いました。

友達の考えについて振り返ることで、よりどころとなる要素は共通していても、テーマの違いによって、様々な音楽が生み出せることに気付けるようにした。

【左：B児の振り返りより】

（二重下線より）リズム・パターンを重ねたときは休符が残り、ずらしたときは休符と音符が重なるため、休符が消える（聞こえなくなる）ことに気付いたり、聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせ、自分なりに思いや意図をもったりしたことが分かる。

（二重下線より）リズム・パターンを1拍及び2拍ずらすことで忙しい感じを表す工夫を考えたが、友達は4拍ずらして考えたことから、より忙しい感じを表現できるのではないかということに気付いたことが分かる。

IV 3年次研究の成果と課題

3年次研究では、「音楽の表現やよさの追求を支える指導の工夫」「学習したことの意義や価値を実感させる評価の工夫」を重点として、研究を進めました。

1 研究の成果

- 表現の学習（音楽づくり）をする上で、児童一人一人の自由な発想を大切にしつつ、音楽を形づくっている要素を生かすテーマに絞ることで、児童が表現のイメージ（音楽づくりの思いや意図）をもつことができました。
- 本時の学習において、児童が音楽を形づくっている要素の働きについて工夫したことについて振り返ることで、自分の考えたことなどを自覚することができました。また、教師にとっても、児童がどのように見方・考え方を働かせているのかについて見取ることができました。
- 児童が端末を活用することで、音楽表現を試しながら考えるために音源を流したり、振り返りの内容をデータ化して蓄積・保存したりすることができました。

2 今後の課題

- 児童が音楽のよさや表現を追求する上で、思いや意図を醸成するために効果的な教師の手立てにはどのようなものがあるのか、更に検証する必要があります。
- 児童が学習したことの意義や価値を実感する評価となるよう、効果的な振り返りの内容や、題材内及び題材間のつながりにおける振り返りの効果的な活用について、更に検証する必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編 文部科学省 東洋館出版社 平成30年2月
- 初等教育資料 No.997「資質・能力の育成に向けた音楽科の授業づくりの在り方」 文部科学省 東洋館出版社 令和2年9月
- 初等教育資料 No.1012「鑑賞指導の充実に向けた題材構想と授業づくり」 文部科学省 東洋館出版社 令和3年10月
- アクティブ・ラーニングの学習評価 田中博之 学陽書房 平成29年3月
- 平成29年版 小学校 新学習指導要領 ポイント総整理 音楽 山下薫子 東洋館出版社 平成29年10月
- 小学校 新学習指導要領の展開 宮崎新悟・志民一成 明治図書 平成29年11月
- 「音楽」のユニバーサルデザイン 授業づくりをチェンジする15のポイント 増田謙太郎 明治図書 令和元年7月